

〈巻頭言〉



平成18年の年頭に当って

豊 田 高 司*

明けましておめでとうございます。わが国の経済も長い低迷期をようやく脱し、少し明るく感じられる昨今ですが、ダム業界は依然厳しい状況が続いており、会員各位におかれては今年も一層の経営努力が求められると存じます。ご健勝をお祈りする次第です。

現在のダム事業の厳しい環境下ではありますが、日本大ダム会議としては、今後のダムの建設や維持管理に必要な技術的な課題に関する調査研究や一般社会の理解と協力を得るための情報提供や広報活動に鋭意取り組んでいるところです。

日本大ダム会議の大きな役割の一つは、ダム技術に関する国際交流活動ですが、昨年10月に開催致しました「土砂管理とダムに関する国際シンポジウム」に関しましては関係官庁、関係団体ならびに会員各位の大変なご支援とご協力のお蔭で、成功裡に終了することができました。海外参加者80名、国内参加者150名、応募論文37編に、世界銀行、ユネスコを含む4人のゲストによる特別講演と内容も盛りだくさんで、非常に中身の濃い2日間のシンポジウムでしたし、その前後に実施しました「筑波研究施設見学」、「天竜川土砂管理見学」、「沖縄ダム見学」も関係者の大変なご尽力のお蔭で、万全の準備をしていただき、非常に充実した見学会でした。

シンポジウムと見学会の間、海外参加者から多くの質問が寄せられ、当方の技術者が丁寧に答えていたのが印象的でしたし、海外参加者から多くの賛辞もいただきました。この場を借りて、準備作業から当日の運営に当られた関係各位に改めて深甚の敬意を表します。

最近では年1回の国際大ダム会議に加えて、2003年から始まった「ICOLDアジア太平洋グループ」（15カ国で構成）および2004年に設立された日中韓3カ国による「東アジア地域ダム会議」がそれぞれセミナーやシンポジウムを毎年開催することになり、海外との付

* (社)日本大ダム会議 会長

き合いが大変忙しくなってきました。これらの会議やセミナー、シンポジウムに会員の皆様から積極的な多くの参加をいただき、日本大ダム会議の評価を高めていただいております。厚く御礼申し上げたいと存じます。

これらの海外活動を通じて感じますのは、わが国に対する期待が非常に大きいことです。われわれは今までの多くのダム建設において、世界に冠たる多大の技術を蓄積してきております。そして現在は、世界に先駆けて地域社会や自然環境との共生、ならびに、既設ダムの有効活用や環境影響低減のための技術開発に取り組んでいます。このわれわれの積極的な取り組みが世界から高く評価されている所以と存じます。

わが国のダム建設地点は少なくなってきましたが、地球温暖化の影響で気象変動が激しくなっており、治水、利水におけるダムの建設整備に関する新たな需要が生じております。これらの需要に応えるために、新しいダム建設だけでなく、既設ダムの再開発や改修、維持管理面における最適運用など各種の手段による総合的対策が必要になってきております。

また、世界の水問題は深刻であり、国連や各種国際機関で真剣に討議されているのはご承知の通りですが、特に、発展途上国において貧困と飢餓の撲滅のため、水の確保は緊急の課題とされています。発展途上国では、住民の安全と安心のための治水、人口増や人口の都市集中に対する食料供給や飲料水確保のため多くのダム建設計画があります。これらのダム計画にも蓄積したわが国の優れた技術が応用できる面が多いと思います。特に、アジア地域では日本の技術が期待されています。

そのため、蓄積されているわが国のダム技術者の優秀な技術を次の世代に伝承し、世界のダム事業に活かせる道を今のうちに造っておく必要があると思います。

これらのことを考えながら、今年も会員各位のお役に立つ事業運営を行っていきたいと念願しております。皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

また、今年も6月にはスペイン・バルセロナでICOLD第74回年次例会と第22回大会があり、10月には韓国で第3回東アジア地域ダム会議があります。これらへの皆様の積極的な参加をお待ち致しております。

今年が会員の皆様にとってより良い年になることを念願し、年頭のご挨拶と致します。